

NPO法人 金堂まちなみ保存会 ニュース

第10号
平成21年3月20日発行
発行者：特定非営利活動法人
金堂まちなみ保存会
理事長 西村 實
普及啓発委員会



「商家に伝わるひな人形めぐり」が二月一日より三月三十一日迄金堂町を中心で開催され、当交流館も会員の市田 椰良生さんのアートフラワーによる花雛で参加をさせて頂いております。全国的にも珍しい雛人形だと連日大勢の方々の来館を賜りました。

昨年十一月二十九日は記念すべき開館の日でもあり、積年にわたり私共が抱き続けた想いが結実した日でもありました。

の設置は是非必要であると考えており、その活用により町民の皆様との一層の絆を結ぶ場になるものと確信を致しております。

金堂まちなみ保存交流館 本格的な活用を迎えて



本格的な運営は新年度より開始を予定しておりますが、東近江市、市観光協会共催の

また、保存会と致しましても町並みの写真等を展示し、本番前の準備期間ではありましたが、会員とお越し頂いた人との交流の場にもなったと思っております。

「商家に伝わるひな人形めぐり」が二月一日より三月三十一日迄金堂町を中心で開催され、当交流館も会員の市田 椰良生さんのアートフラワーによる花雛で参加をさせて頂いております。全国的にも珍しい雛人形だと連日大勢の方々の来館を賜りました。

(理事長 西村實)



増田洲明さんの書

金堂まちなみ保存交流館に「金堂まちなみ保存会」の額が飾ってあります。これは東近江市出身の書家、増田洲明さんに書いていただいたものです。

増田洲明さんは書き損じた紙をもう一度再生した「おわび紙」に書を書く活動でも有名です。ぜひ交流館に立ち寄られた際は、増田洲明さんの書かれた「金堂まちなみ保存会」の額をご覧下さい。

火災のないまちづくり



日頃は、消防活動にご協力頂き誠にありがとうございます。

一月一日、雪景色の中、早朝より特設消防団員・女性消防隊員・評議員の皆様全員ご参加のもと、金堂馬場広場にて、出初め式を行いました。式典後、二ヶ所の防災水槽等にて、機械点検・放水訓練を行い、町内には二号消火栓が一五基設置してありますので、近隣の方々にもご参加し

ていただき、放水訓練を行いました。すばやい初期消火につながるには、日頃の訓練が必要だと思います。今後共、町民の皆様、放水訓練にご参加くださいますようよろしくお願い致します。

金堂の歴史再発見

金堂の学校ことはじめ

明治五年(一八七二)明治政府は、近代国家建設の成否は教育による人づくりにあるとして、「必ず邑ニ不学ノ戸ナク家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス」とした学制を公布しました。

この公布を受けて、滋賀県は明治六年一月県下各村に学校建設を通知しています。金堂村には江戸時代後期の文化二年(一八〇五)開校の寺子屋「洞松館」が常時百名ほどの寺子に読み書き算盤を教えていましたが、金堂村ではこの通達より六ヶ月も早い同年五月には戸長外村宇兵衛ら村民有志の協力で弘誓寺の一面に小学校を設立。教員三名をもって、男女九三人の生徒を対象に五ヶ荘地区で最初の小学校「明新学校」がスタート



トしています。

成立間もない明治政府や地方の役所は財力に乏しく、国や県からの補助が期待できなかったため、金堂村では学校設立の建設資金を村内各戸に割当て、各戸をその資力により一等から八等に分け、一・二等は任意とし三等二両二歩(八分)から八等二朱に定め、合計二〇七戸で総額二〇〇両を出資しています。しかし、零細な授業料収入だけでは教員給料や事務経費などの学校運営費は賅えませんでした。そこで



近江商人の里らしく、金堂村では経営安定のため「学校維持基本金」として明治一二年に基金二〇〇〇円を積み立て、その運用利子をもって学校の運営維持費にあてられています。「三方よし」のうち、地域の子弟教育は自らの責務と自覚した近江商人たちの「世間よし」の精神がここにも発揮されてきました。

(林 純)

編集後記

金堂まちなみ保存交流館が、機能を始めました。それに触発され、保存会会員の活動意欲も向上し、会の活動がより活発になってきています。その一環として現在、ホームページのリニューアル作業が、普及啓発委員会の皆の手で行われています。新しいホームページは来月にはお披露目できます。楽しみにお待ちしております。

(城市 智幸)